



分科会 13 慢性疾患患者へのファーマシューティカル・ケアを考える

10月8日(月・祝) 10:30～13:00 第4会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 4F 43+44会議室)

W-13-05

リウマチ患者に対する薬剤師の役割

わたなべ ようこ 渡部 陽子^{1,2)}

1) (株) ファーマシーダイマル、2) (有) 参友堂

関節リウマチ (RA) の治療は、1999年にメトトレキサート (MTX) が、2003年に初の生物製剤であるインフリキシマブが保険適応となったことで劇的に変化した。その後、2011年にMTXの最大用量が海外と同様、8mg/週から16mg/週まで投与可能となり、第一選択薬として位置付けられるようになった。加えて、タクロリムス、ミゾリピンやレフルノミドなど、MTX以外の免疫抑制剤も新規DMARDsとして活用されている。他方、生物製剤としては、アダリムマブをはじめ、6種類が上市されている。

このように選択肢が飛躍的に拡大した結果、RA治療は専門医に委ねられる機会が多くなった。しかし70万人と推定されるRA患者に対し、専門医の数が圧倒的に少ない現状を鑑み、専門医から地域医療へのシームレスな連携が始まっている。これは、専門医が在籍しない医療機関においても、治療の機会が増えていくことを意味している。そのため薬剤師には、これまで以上に薬物治療アルゴリズム等に精通し、より有効かつ安全な薬学管理に貢献することが求められている。

RA患者に対する薬学管理の目的は、1) 服薬アドヒアランスを良好に維持すること、2) 薬物療法の有効性と安全性を確保すること、の2点に大別できる。1) では、服薬に関する患者の理解度の向上、服薬を妨げる要因の検証と問題解決、患者の能力や要望に沿った調剤が不可欠である。中でも、MTXがアンカードラッグであるため、服薬曜日や服用時点と生活パターンのマッチングが服薬遵守の鍵を握るといっても過言ではない。

加えて、RA患者の場合、罹患期間が長期化すると、手指機能が低下しやすくなる。また、高齢者が多いため、視力障害を有しているケースも多い。我々は、視覚障害者を含む高齢者を対象として、医薬品の包装及び情報提供に関する調査を実施し、高齢者による医薬品の取り扱い過程では手指機能が重要であり、できるだけ少ない力で簡単に取り扱える製品が望ましいことを明らかにしている。そのためRA患者では、服薬補助器具の積極的な活用を提案することや、一包化調剤への工夫が服薬アドヒアランスを支援する上で必要となってくる。例えば、一包化調剤の際に分包紙に切れ目を入れることで、少ない力で開封を可能にする、あるいはできるだけ大きなゴシック体の文字で日付を印字し、服薬タイミングの認識能を高めることが服薬遵守において有効である。

一方、2) には投与禁忌等の確認、副作用の情報提供と能動的モニタリング、薬剤間相互作用のチェック、健康食品のチェック等がある。リウマトレックスカプセルの適正使用情報 Vol.17 (2011年)によると、417例の死亡症例のうち、投与禁忌・慎重投与事例が49.9%含まれていた。言い換えれば、腎・肝機能障害、骨髄抑制といったリスク項目の確認を主治医まかせにせず、保険薬局でも徹底することや、副作用初期症状のモニタリングを能動的に行うことが健康被害の防止には重要である。今後は、フィジカルアセスメントやバイタルサインによる副作用モニタリングが求められるであろう。

リウマチ患者への副作用アセスメントに際しては、病院内で注射剤が投与されていることがあり、処方されている薬剤のみを対象にすると誤った結論を導く可能性がある。そのため、保険薬局薬剤師も院内での薬物療法について熟知し、注射剤を含めて包括的に副作用のアセスメントを行う必要がある。

また、効果的な副作用情報提供書の作製は、(1) 背景と文字との明度差、(2) 文字ポイントやフォント、(3) ビジュアル効果の有無、(4) 色相や彩度の組み合わせ、を考慮する必要がある。我々の臨床研究では、情報の理解度の低下が医薬品の不適切な使用につながりやすいという結果が得られているため、情報提供に際しては、イラスト等を用い、わかりやすく使いやすい形に加工した情報を、五感に訴えることで、セルフチェックを支援すべきである。

抗リウマチ薬の薬物間相互作用に関するマネジメンは、ほかの医薬品と同様に、適正使用の実践において重要である。中でも、免疫抑制剤は相互作用により重篤な結果を招く可能性があるため、併用注意であっても、患者特性等のリスク因子を評価して注意深く対応しなければならない。さらにRA患者は、不安やQOLの改善を求めて健康食品を安易に利用しているケースが少なくない。抗リウマチ薬との相互作用を回避するためにも、健康食品にも精通しておく必要がある。

以上、RA患者に対する薬剤師の役割について述べてきたが、本疾患の場合、薬学管理の項目が多いため、チェックリストの活用が有用である。そして何よりも日々病氣と向き合っている患者本人に寄り添って、多くのことを共有しつつ、薬剤師としての自覚を醸成し、専門知識や技能を習得すると共に、それらを実践することが適正な薬学管理の第一歩になるであろう。